

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-086453

(43)Date of publication of application : 28.03.2000

(51)Int.Cl.

A61K 7/06
// A61K 7/075

(21)Application number : 10-258615

(71)Applicant : KOSE CORP

(22)Date of filing : 11.09.1998

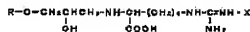
(72)Inventor : TOUFUKUJI TOMEYOSHI

(54) HAIR COSMETIC

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a hair cosmetic capable of repairing damaged hair and providing hair with a moist feeling without feeling stickiness and stiffness, useful as a hair conditioner, etc., by making the hair cosmetic include a specific amino acid-based amphoteric surfactant and a specified humectant.

SOLUTION: This hair cosmetic comprises (A) a compound of the formula (R is a 8-22C alkyl; X is an acid) {e.g. an N-[3-alkyl(12,14)oxy-2-hydroxypropyl]-L-arginine hydrochloride, etc.}, and (B) one or more kinds of humectants selected from a plant-derived humectant (preferably a vegetable protein hydrolyzate such as wheat protein hydrolyzate, etc., a marine alga extract such as carrageenan, etc.), a urea-based humectant (preferably urea) and a saccharide-based humectant (preferably fructose) in the ratio of 0.01-5 wt.% of the component A and 0.001-5 wt.% of the component B.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 06.02.2003

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 02.11.2004

[Kind of final disposal of application other than

the examiner's decision of rejection or
application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-86453

(P2000-86453A)

(43) 公開日 平成12年3月28日 (2000.3.28)

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	チーエーエー (参考)
A 6 1 K	7/06	A 6 1 K	4 C 0 8 3
// A 6 1 K	7/075	7/075	

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願平10-253615	(71) 出願人	000145802 株式会社コーセー 東京都中央区日本橋3丁目6番2号
(22) 出願日	平成10年9月11日 (1998.9.11)	(72) 発明者	京製寺 博隆 東京都北区巣町48番18号 株式会社コーセー 一研究本部内
		(74) 代理人	100096304 弁理士 小野 郁夫

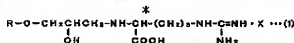
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 毛髪化粧料

(57) 【要約】

【課題】 傷んだ毛髪を補修し、べたつきやごわつきを感じることなく、毛髪にしっかりと感付与できる毛髪化粧料を提供すること。

* 【解決手段】 次の成分 (A) 及び (B)、(A) 一級式 (1) で表される化合物【化1】



(式中、Rは炭素数8〜22のアルキル基を示し、Xは酸を示す)

(B) 植物由来保湿剤、尿素系保湿剤または糖系保湿剤

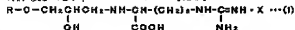
から選ばれる1種又は2種以上の保湿剤を含有することを特徴とする毛髪化粧料。

(2)

特開2000-86453

【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の成分(A)及び(B)、



(式中、Rは炭素数8～22のアルキル基を示し、Xは

酸を示す)
(B)植物由来保湿剤、尿素系保湿剤または糖系保湿剤から選ばれる1種又は2種以上の保湿剤を含有することを特徴とする毛髪化粧品。

【請求項2】 (B)成分が植物性タンパク加水分解物であることを特徴とする請求項1記載の毛髪化粧品。

【請求項3】 (B)成分が保湿抽出物であることを特徴とする請求項1記載の毛髪化粧品。

【請求項4】 (B)成分が尿素であることを特徴とする請求項1記載の毛髪化粧品。

【請求項5】 (B)成分が糖質であることを特徴とする請求項1記載の毛髪化粧品。

【請求項6】 (A)成分の含有量が0.01～5重量%、(B)成分の含有量が0.001～5重量%であることを特徴とする請求項1から5の何れかの項に記載の毛髪化粧品。

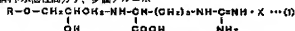
【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、毛髪化粧品に関し、さらに詳細には、傷んだ髪を補修し、べたつきやごわつきを感じることなく、毛髪にしっかりと感付与する毛髪化粧品に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、毛髪化粧品において、傷んだ髪をケアし、まとまりを良くし、また、適度なしっとり感と付与するために、各種油剤や水溶性高分子、多価アルコ



(式中、Rは炭素数8～22のアルキル基を示し、Xは

酸を示す)
(B)植物由来保湿剤、尿素系保湿剤または糖系保湿剤から選ばれる1種又は2種以上の保湿剤を含有することを特徴とする毛髪化粧品である。

* (A)一般式(1)で表される化合物

【化1】

※ール、あるいはセラチン加水分解物などの保湿剤が適宜配合されていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、ラノリン、炭化水素油、エステル油といった油剤を使用した場合、しっとり感というよりもエモリエント感が勝り、仕上がりが重くなり、べたつきを生じる傾向があった。また、水溶性高分子や多価アルコールを配合した場合には使用時のうるおい感は演出できるが、時間が経つにつれてごわつきを生じる傾向があった。更に、セラチン加水分解物の添加では毛髪に好ましくないハリ・コシが付与される傾向があった。このように毛髪用の保湿剤もその種類によって長一短があり、満足いく保湿効果が得られなかった。そこで、傷んだ毛髪を補修し、べたつきやごわつきを感じることなく、毛髪にしっかりと感付与する毛髪化粧品の開発が望まれていた。

【0004】

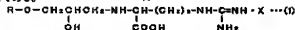
【課題を解決するための手段】このような事情に鑑み、本発明者は毛髪化粧品に保湿剤を配合した場合の欠点を克服すべく鋭意研究を行った結果、特定のアミノ酸系両性界面活性剤と特定の保湿作用を有する成分とを組み合わせて配合する事により、上述した課題を解決し得ることを見出し、本発明を完成させた。

【0005】すなわち本発明は、次の成分(A)及び(B)、(A)一般式(1)で表される化合物

【化2】

* 【0006】

【発明の実施の形態】以下、本発明について詳述する。本発明に用いられる(A)成分は、次の一般式(1)【化3】



(式中、RおよびXは前記した意味を有する)で示されるL-アルギニンの誘導体である。

【0007】一般式(1)中、Rは炭素数8～22のアルキル基であるが、とりわけ炭素数が12～14のものが好ましい。また、Xで表される酸としては、L-アルギニン部分と塩を形成して安定に存在し得るものであれば特に限定されず、塩酸、硫酸等の無機酸、酢酸、乳酸等の有機酸が例示されるが、これらの中でも特に塩酸が好ましい。

【0008】式(1)の化合物の好ましい具体例として

は、アルキル基の炭素数が12又は14である、N-[3-アルキル(12, 14)オキシ-2-ヒドロキシプロピル]-L-アルギニン塩酸塩を挙げることができる。この化合物はアミセプ(LMA-60(味の素製))として市販されており、これを好適に使用することができ。

【0009】本発明に用いられる(B)成分は、植物由来保湿剤、尿素系保湿剤又は糖系保湿剤から選ばれる1種または2種以上の保湿剤である。

【0010】この(B)成分のうち、本発明に使用され

(3)

特開 2000-88453

る植物由来保湿剤としては、植物性タンパク加水分解物、海藻抽出物等が例示される。このうち植物性タンパク加水分解物としては、大豆タンパク、小麦タンパク等の加水分解物、これらにトリメチルアンモニウム塩、高級アルキル第4級アンモニウム塩等がカチオン化した誘導体、これらのN-アルキル化誘導体、あるいはアルキルエステル誘導体等が例示される。また、例えばプロモイスWS、プロモイスWG（以上化成化成工業）、GLUADIN W20（ヘンケル社製）等の市販品を使用することができる。

【0011】これらの植物性タンパク加水分解物は、毛髪との親和性に優れ、毛髪に吸着して傷んだ髪を保護・修復したり、さらには保湿効果にも優れる。従来、コラーゲン加水分解物、セラチン加水分解物、シルク加水分解物、ミルクカゼイン加水分解物、パール加水分解物のような動物性タンパク加水分解物は汎用されてきたが、これらは毛髪の補修効果が高い反面、発熱的にハリ・コシ感を感じず、せつ々とした保湿効果が付与されてもしなやかさが損なわれる傾向があった。これに対して、大豆タンパク加水分解物、小麦タンパク加水分解物のような植物性タンパク加水分解物は、適度な毛髪補修効果と高い保湿効果をもつており、しなやかで自然なまとまり感を与える働きに優れており、更に（A）成分との併用により毛髪にしっとり感を付与する効果が格段に向上し、しかもべたつきやごわつきを感じることが少なくなる。

【0012】また、植物由来保湿剤の他の例である海藻抽出物は、褐藻類（Phaeophyta）、紅藻類（Rhodophyta）、緑藻類（Chlorophyta）等から水又は低水性溶媒により抽出して得られる物質である。本発明において、これらのいずれをも使用することができるが、このうち、海藻由来の多糖類やその誘導体が好きましい。具体的には、カラギーナン、アルギン酸、フコキサンチン等の天然多糖類やその誘導体が挙げられる。この海藻抽出物は高い保湿効果を与えており、毛髪にしなやかで自然なまとまり感を与える働きに優れた保湿剤であるが、本発明においては（A）成分との併用により毛髪にしっとり感を付与する効果が更に優れたものになり、しかもべたつきやごわつきを感じることが少なくなる。

【0013】更に、本発明に用いられる（B）成分のうち尿素系保湿剤としては、尿素、尿酸、アラントイン等が例示される。とりわけ尿素は高い保湿効果を示し、皮膚用の保湿クリーム等に配合される成分である。そして本発明においては（A）成分との併用により毛髪にしっとり感を付与する効果が更に優れたものになり、しかもべたつきやごわつきを感じることが少なくなる。

【0014】更にまた、本発明に用いられる（B）成分のうち糖系の保湿剤としては、果糖、ブドウ糖、ショ糖、ソルビトール、トレハロース、プルラン、マルト

糖等が例示される。特に果糖は代表的なケトースの一種であり、広く自然界に存在する成分である。食用では甘味料として使用されることが多いが、化粧品に配合すると良好な保湿効果が得られる。そして本発明においては（A）成分との併用により更に毛髪にしっとり感を付与する効果が向上し、しかもべたつきやごわつきを感じることが少なくなる。

【0015】本発明の毛髪化粧料は、常法に倣い、上記（A）成分と（B）成分とを適当な化粧料成分とともに配合することにより調製される。その際の（A）成分の配合量は、全組成中0.01～5重量％以下、単に「％」で示す）程度が好ましく、更に毛髪の補修効果及び保湿性を高め、毛髪への適切な付着やごわつきを抑える上で0.1～3％程度がより好ましい。また、（B）成分の配合量は、全組成中0.001～5％程度が好ましいが、毛髪へのしっとり感の付与やべたつきやごわつきのなさにおいて更に高い効果を得る上で0.01～2.5％程度がより好ましい。ここで、（B）成分のうち、植物由来保湿剤の配合量は乾燥固形分としての量を示す。なお、上記（B）成分の保湿剤は、1種又は2種以上を組み合わせて用いることができる。

【0016】本発明の毛髪化粧料において化粧料成分は、目的に応じ、本発明の効果を損なわない適当な範囲で加えられるが、その例としては、水溶性ポリマー、天然又は半合成多糖類等の粘度調整剤；イオン性又は非イオン性の毛髪固着用皮膜形成剤；カチオンポリマー、カチオン性界面活性剤等の髪質改良剤；洗浄剤や乳化剤としてのイオン性界面活性剤、非イオン界面活性剤；高級アルコール、グリセリン脂肪酸部分エステル等の乳化助剤；グリセリン、ポリグリセリン、プロピレングリコール、ポリエチレングリコール、1,3-ブチレングリコール等の多価アルコール；エタノール、ベンジルアルコール等の低級アルコール類；LPG、DMF、炭酸ガス、窒素ガス等の噴射剤；クレンジング用の殺菌剤；毛髪又は頭皮用の美容成分；キレート剤等、毛髪用化粧料において汎用される成分が挙げられる。また、例えばpH調整剤、色素、香料、紫外線吸収剤、酸化防止剤、防腐剤、顔料等、通常化粧料において使用される他の成分の配合が可能である。

【0017】本発明の毛髪化粧料は、他の成分との併用や官能の機能により、例えば、液状、乳液状、クリーム状、ジェル状、ムース状等、種々の形態とすることができ、シャンプー、ヘアリンス、ヘアコンディショナー、ヘアパック、ヘアクリーム、ヘアローション、ヘアスティングムース、ヘアスプレー、ヘアジェル等が代表される毛髪用製品として用いることができる。使用方法としては、毛髪に塗布した後洗い流すタイプ、または乾いた毛髪に塗布するタイプのいずれの製品にも用いることができる。

【0018】

(5)

特開2000-86453

7

8

(組成)	(成分)							
	1	2	3	4	5	6	7	
(1) ポリオキシエチレンステアリルエーテル(OE, 6)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
(2) 炭酸バリウム	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
(3) セタノール	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
(4) 他ホスファリルトリメチルアンモニウム	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
(5) 1, 3-ブチレンジオール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	
(6) アミノ酸系界面活性剤(注1)	0.01	5.0	—	—	—	—	—	
(7) カルボキシ加水分解物(注2)	—	—	1.0	—	—	—	5.0	
(8) カラゲナン	—	—	—	—	—	—	0.5	
(9) 海藻エキス(注3)	—	—	—	1.0	—	—	—	
(10) 炭酸	—	—	—	—	1.0	—	0.5	
(11) 炭酸	—	—	—	—	—	1.0	—	
(12) 炭酸	—	—	—	—	—	—	1.0	
(13) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(14) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(15) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(16) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(17) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(18) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(19) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(20) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(21) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(22) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(23) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(24) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(25) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(26) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(27) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(28) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(29) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(30) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(31) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(32) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(33) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(34) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(35) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(36) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(37) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(38) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(39) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(40) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(41) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(42) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(43) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(44) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(45) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(46) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(47) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(48) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(49) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(50) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(51) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(52) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(53) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(54) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(55) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(56) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(57) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(58) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(59) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(60) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(61) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(62) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(63) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(64) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(65) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(66) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(67) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(68) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(69) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(70) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(71) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(72) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(73) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(74) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(75) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(76) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(77) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(78) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(79) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(80) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(81) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(82) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(83) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(84) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(85) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(86) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(87) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(88) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(89) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(90) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(91) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(92) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(93) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(94) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(95) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(96) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(97) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(98) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(99) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	
(100) 炭酸	—	—	—	—	—	—	—	

※成分が異なる場合、配合量(重量%)はその割合の値を示す。

(注1) N-[3-アルキル(12, 14)オキシ-2-ヒドロキシプロピル]-L-アルギニン塩酸塩(海産物由来)

(注2) プロモイシ W6 (炭酸水素ナトリウム)

(注3) 海藻エキスM (丸善製薬社製)

【0023】(製法)

- A. 成分(1)～(3)を加熱溶解する。
 B. 成分(4)～(12)及び(14)を加熱溶解する。
 C. BにAを添加して均一に乳化混合し、冷却後に成分(13)を添加する。
 D. Cを容器に充填してヘアコンディショナーを得る。

【0024】(評価方法) 今までにコードバマやブリーチ等の興奮処理を行ったことのない日本人女性の頭皮20cmを30gをわけて1毛束とし、これを乾燥用蓋した。これらの毛束を30秒間流水ですすぎ洗い、タオルで水気を拭き取った後、1束をブランクとし、他の毛束の各々に本発明品1～16および比較品1～7の各試料を1.5gずつ塗布した。これらを30秒間すすいでいる間(すすぎ時)の毛束の滑らかさについて、10名の専門評価パネルにより、(a)に示す5段階評価基準を用いて評価してもらった。その後、毛束は30℃の恒温槽にて乾燥させ、乾燥後の滑らかさ、柔軟性、しっとり感、まとまりの良さについて、同様に5段階評価してもらった。その後、各試料の評価の平均値を(b)に示す4段階判定基準を用いて判定した。

【0025】(a) 5段階評価基準

(組成)

(成分)	(重量%)
(1) ポリオキシエチレンスチアルキルエーテル硫酸塩(3E.O.)	15
(2) N-[3-アルキル(12, 14)オキシ-2-ヒドロキシプロピル]-L-アルギニン塩酸塩	5
(3) エデト酸二ナトリウム	0.1
(4) 加水分解大豆タンパク(注4)	0.5

*

* (評価)

- 4 : ブランクと比較して、非常に良い
 3 : # , 良い
 2 : # , 劣らない
 1 : # , やや悪い
 0 : # , 悪い

【0026】(b) 4段階判定基準

- (評価) (判定)
 3. 0を越える : ◎
 2. 0を越え、3. 0以下 : ○
 1. 0を越え、2. 0以下 : △
 1. 0以下 : ×

【0027】表1および表2の結果から明らかなように、本発明のヘアコンディショナーは比較品1～7と比較して、すすぎ時の滑らかさが良好で、乾燥後の使用感(滑らかさ、柔軟性、しっとり感、まとまりの良さ)にも優れていた。従って、ヘアコンディショナーとして優れた効果を有するものであることが実証された。

【0028】実施例2

シャンプー：下記に示す組成および製法で、シャンプーを調製した。

(6)	特開2000-86453
9	10
(5) 防腐剤	適量
(6) 香料	適量
(7) 精製水	残量
(注4) プロモイスマS (成和化成社製)	
【0029】(製法)	*しっとり感と滑らかさが付与できる、きわめて優れた効果を示すものであった。
A. 成分(1)~(7)を均一に混合する。	【0031】実施例3
B. Aを容器に充填し、シャンプーを得る。	ヘアトリートメントローション：下記に示す組成および製法で、ヘアトリートメントローションを調製した。
【0030】以上のようにして得られたシャンプーは、良好な使用性を有し、洗い上がりはべたつかず、適度な水(組成)	
(成 分)	(重量%)
(1) 1, 3-ブチレングリコール	2
(2) グリセリン	1
(3) 尿素	1
(4) 果糖	0.1
(5) カラギーナン	0.01
(6) 加水分解小麦タンパク(注2)	0.1
(7) 塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	0.5
(8) メチルフェニルポリシリコン	1
(9) N-[3-アルキル(12, 14)オキシン-2-ヒドロキシプロピル]-L-アルギニン塩酸塩	0.2
(10) エタノール	20
(11) 防腐剤	適量
(12) 香料	適量
(13) 精製水	残量
(注2) 実施例1と同じ	
【0032】(製法)	*ントローションは、ミスト状で毛髪に良好に使用でき、バサつきを抑え、べたつかず、適度なしっとり感とまとまりの良さを有する、きわめて優れた効果を示すものであった。
A. 成分(1)~(6)および(13)を混合溶解する。	【0034】実施例4
B. 成分(7)~(12)を混合溶解する。	ヘアジェル：下記に示す組成および製法で、ヘアジェルを調製した。
C. AにBを添加して均一に混合する。	
D. Cをミスト容器に充填し、ヘアトリートメントローションを得る。	
【0033】以上のようにして得られたヘアトリートメント(組成)	
(成 分)	(重量%)
(1) カルボキシビニルポリマー	0.5
(2) ポリビニルピロリドン	3
(3) グリセリン	1
(4) 水酸化ナトリウム	適量
(5) N-[3-アルキル(12, 14)オキシン-2-ヒドロキシプロピル]-L-アルギニン塩酸塩	2
(6) アルギニン酸ナトリウム	0.5
(7) エタノール	20
(8) ポリオキシエチレンオクテリルデシルエーテル	0.2
(9) 防腐剤	適量
(10) 香料	適量
(11) 精製水	残量
【0035】(製法)	に混合する。
A. 成分(11)の一部に成分(1)及び(6)を均一	B. 成分(11)の一部に成分(2)及び(3)を均一

11

に混合する。

C. 成分(5)、(7)～(10)を混合溶解する。

D. 成分(4)及び(11)の残部を混合溶解する。

E. DにCを添加して混合溶解し、更にA、Bを添加して均一に混合する。

F. Eを容器に充填してヘアジェルを得る。

【0036】以上のようにして得られたヘアジェルは、適度な粘弾性を有しており、良好な整髪力と、適度なし*

(7)

特開2000-88453

12

*っとり感と滑らかさを発揮する、きわめて優れた効果を示すものであった。

【0037】

【発明の効果】以上詳述した如く、本発明の毛髪化粧料は、傷んだ毛髪を修復し、べたつきやごわつきを感じることなく、毛髪にしっとり感を付与する効果に優れたものであり、毛髪化粧料として優れた品質を有する。

以 上

フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 A0111 AB032 AC022 AC072
 AC102 AC122 AC382 ACS32
 AC581 AC681 AC682 AC692
 AC782 AD072 AD092 AD152
 AD191 AD201 AD202 AD302
 AD352 AD411 AD412 CC33
 CC38 DD41 EE06 EE07 EE28
 FF05